

アートプロジェクト

Giant Micro Plastic

「Giant Micro Plastic」は、私たちの目には見えにくいマイクロプラスチックを、巨大な造形作品として可視化するアートプロジェクトである。

現代社会において、プラスチックごみの問題は深刻化しているが、その中でも特にマイクロプラスチックは、目に見えないがゆえに実感しにくく、議論が後回しになりがちという課題がある。本プロジェクトでは、実際に海岸で採取したマイクロプラスチックをマクロレンズでクローズアップ撮影し、その質感や形状をもとに巨大なペーパークラフト彫刻として再構築する。

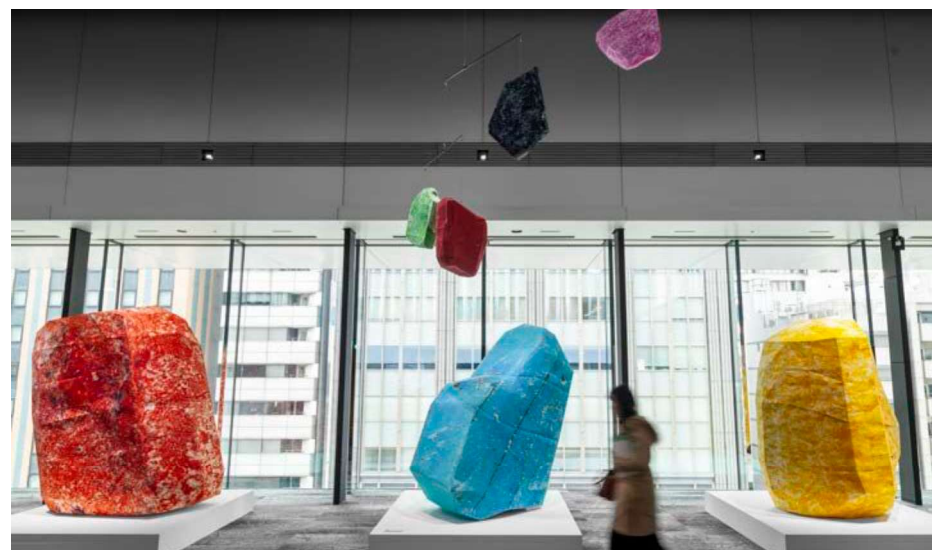
このプロセスを通じて、微細なプラスチックが持つ意外とも言える美しさや異物感を強調し、鑑賞者に「見えない問題」としてのマイクロプラスチックを再認識してもらうことを目的としている。

また、地元の若者と協力しながら、マイクロプラスチックの採取やワークショップを実施することで、環境問題への関心を深める機会を生み出すことを想定している。本プロジェクトは、アートと環境教育を融合させ、身近な問題を新たな視点から捉える試みである。

ワークショップの提案「マイクロプラスチックで万華鏡を作ろう！」

主に小学生を対象に、カラフルなビーズを自分で採取したマイクロプラスチックに置き換えて作って覗いてみるという試み。ワークショップで制作した万華鏡は持って帰ることができるようにする。マイクロプラスチックの採取ではワークショップ参加者と地元のビーチ清掃のボランティアのコラボレーションの実現を目指している。

市民参加のかたち：ワークショップ・展示鑑賞



©安西 剛 / Tsuyoshi Anzai

安西 剛

現代美術作家。キネティック&ビデオアーティスト。

1987年生まれ。千葉県在住。2011年 東京藝術大学大学院映像研究科修士課程修了。プラスチック製の日用品などを用い、人間とモノとの関係を問い直す作品を制作している。金沢21世紀美術館にて個展『アペルト12 安西剛 「ポリ-」』を開催。ポーラ美術振興財団より若手芸術家の在外研修助成を得てベルリンのクンストラーハウス・ベタニエンで1年間滞在制作。ブダペストのルートヴィヒ美術館で開催されたグループ展『EXTENDED PRESENT -TRANSIENT REALITIES』に出品。